

“大学生が考える” 「修善寺虹の郷」魅力度向上プロジェクト

静岡県立大学 経営情報学部 大久保あかね観光研究室

指導教員：教授 大久保あかね

参加学生：阿部太一、岩見果奈、菊地華帆、北村優芽
磯崎心叶、鈴木美羽、長島雪奈、松林俊希

1 要約

本研究では、修善寺虹の郷の魅力度向上を目指し、それに伴い修善寺地域の活性化を図るため、効果的な情報発信方法や虹の郷の効果的な活用について調査・提案を行った。

活動発足当初は、虹の郷を中心にナイトタイムエコノミーの推進の提案をベースに活動を進めていたが、実地調査やアンケート結果をもとに計画を練り直した結果、「ワンちゃん連れ」にフォーカスを向け、利用満足度の向上やイベントの計画などを行った。

虹の郷・修善寺の現状や利用者・管理者双方の意見を汲み取り、より満足度の高いものを提案できるよう計画・提案を進めた。

2 研究の目的

大学生の感性から虹の郷の良さをブラッシュアップし、新たな魅力を創造する。より多くの人に『修善寺虹の郷』の魅力を伝える。

3 研究の内容

1. 修善寺虹の郷が保有する資源の調査
2. 修善寺虹の郷の取り組み状況をフィールドワークによって把握する。
3. 修善寺虹の郷利用者および修善寺温泉利用者への質問紙調査（利用者の利用状況及びデモグラフィック分析、満足度調査等）
4. 上記を踏まえた修善寺虹の郷への誘客戦略を策定

4 研究の成果

(1) 活動内容

以下のスケジュールで活動した。

- 5月 現地視察①・企画書提出
- 7月 伊豆市役所観光商工課との打ち合わせ
- 8月 現地調査②、総括支配人との打ち合わせ
- 9月 虹の郷SNS担当との打ち合わせ
- 10月~11月 モニター調査、インタビュー
- 11月 現地調査③、伊豆市役所観光商工課・虹の郷総括支配人への中間報告
- 12月~1月 提案内容の精査、報告書とりまとめ

(2) 調査を踏まえた提案

活動開始当初、虹の郷が中心となって修善寺地域の振興のために有効的な策は何かを考察した。修善寺を代表する観光資源である温泉街と虹の郷の結びつきを強くするために何ができるかという点や、虹の郷の課題を解決しながらブラッシュアップする方法を定めた。

1. SNS運用の方法について

現代における主な情報収集の方法としてSNSはかなり大きなものであると考えた。虹の郷はじめ修善寺が多くの人々の目に留まるようなSNS運用を目指すのが効果的なのではないかと考え、実際に虹の郷のSNS運用担当者様と相談をしたうえでハッシュタグや写真の選定方法などを提案した。

2. ナイトタイムエコノミーの推進

現時点で修善寺地域は夜の時間帯に営業しているお店がほとんどない。そこで、虹の郷が夜間の開園・イベントを行うことで周辺施設にも相乗効果が生まれるのではないかと考えた。先行事例としてルーブル美術館のナイトツアーや富士山御殿場口のナイトハイキングなど、実際にナイトタイムエコノミーの先駆けとしてイベントを実施し、その周辺に好影響を与えた事例をもとに考案を進めた。

しかし、11月に行ったアンケートでは、修善寺地域の宿泊者は夜間は旅館でゆっくり過ごしたいという声が多数であり、観光客からのナイトタイムエコノミーに対する需要の低さ（図1）などから、提案から除外した。

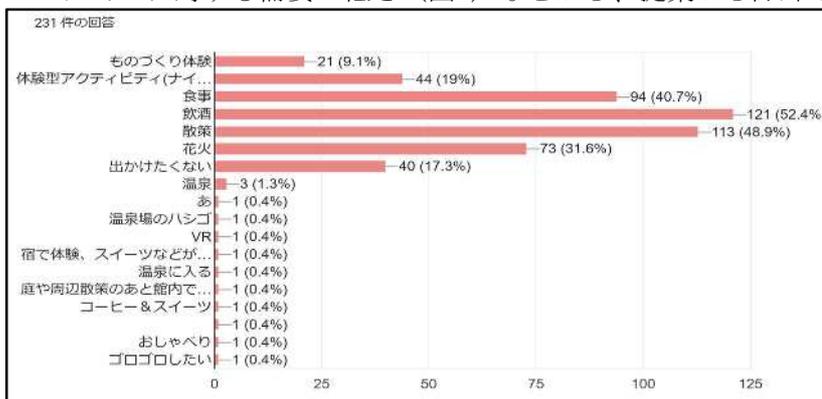


図1. 夕食から就寝までにしたいこと（複数回答）

3. ワンちゃん連れ利用者の呼び込み

一方で、複数回にわたり実地調査に赴き、実際に高い需要を実感したのがペット同伴（以降、「ワンちゃん連れ」と表記）での利用である。ワンちゃん連れの方は県内に限らず関東圏からもかなり多くの利用者が集まり、季節によって変わる虹の郷の魅力と合わせて、フォトジェニックや散歩を楽しんでいる様子が見られた。

そこで、「ワンちゃん連れの利用者は、日本全国のワンちゃんと利用できる施設に足を運ぶ傾向がある」との仮説を立て、その中でも虹の郷が最も利用しやすくなるための提案を検討した。

(3) 実績・成果と課題

①SNS運用の提案

「投稿画像の明度を上げる」「ハッシュタグを活用する」「サムネイルの改善」を主に提案した。その結果、提案前の修善寺虹の郷インスタグラムの5月平均いいね数は94.944だったが、提案後の11月は、125.5であった。

②モニター調査の実施

二世世代家族1組、三世世代家族2組、夫婦・カップル1組、ワンちゃん連れ1組にご協力いただき、10月18日から11月3日の間で修善寺虹の郷に来場してもらった。後日、滞在時間や順路などの聞き取りを行った。

③ワンちゃんマップの提案

現地調査やモニター調査の結果、ワンちゃん連れの来場者からのニーズが高いことが明らかになった。そこで、ワンちゃん連れの来場者がより快適に施設を利用できる環境を整えることを目的として、園内マップに加え、ワンちゃん専用マップの作成を

提案した。既存のワンちゃんマップに写真や各施設の詳細情報を掲載することで、視認性と利便性の向上を図った。

<具体的な改善点>

- 休憩所の写真を掲載する
- 飲食店に番号を振りお店の場所と名前を同時に確認できるようにする
- おしっこポールやリードフックの実物の写真を掲載する



図2. ワンちゃんマップ提案バージョン (原案)

これにより、ワンちゃん連れ来場者が利用可能な施設や動線を事前に把握しやすくなり、園内の回遊性向上が期待される。また、写真や施設の詳細情報を掲載することで、初めて来園する来場者にとっても分かりやすい情報提供が可能となり、安心して施設を利用できる環境づくりに寄与すると考えられる。

一方で、園内は起伏のある地形が多く、マップ上の情報のみでは現在地を把握しにくい場面が想定される。そのため実際の運用にあたっては、案内看板や現在地表示の工夫など、マップと現地表示を組み合わせた情報提供の検討が今後の課題に挙げられる。

(4) 今後の改善点や対策

本調査では、虹の郷の意向を踏まえ三世代家族をターゲットに設定し、2回にわたりアンケート調査を実施した（現地視察②③）。しかし、1回目の調査日は天候不良の影響により来場者数が少なく、特にワンちゃん連れの来場者がほとんど見られなかったため、来場者属性に偏りが生じ、どの層に需要が高いのかを十分に把握することができなかった。しかし、その後調査や検討を進める中で、ワンちゃん連れの来場者に対する需要が見込まれる可能性に気づいた。調査の初期段階で視野を広く持ち、気づくことができればより効果的な調査につなげることができたことが悔やまれる。

今後の改善点は、調査日を複数日に分散させ、天候や曜日による来場者層の違いを考慮した調査を行うことが重要であると考えられる。また、現地のアンケートに加え、SNSやWebを活用した事前・事後調査を組み合わせることで、来場者数が少ない場合でも多様な意見を収集できる体制を整える必要があると感じた。さらに、三世代家族の中でも「子育て世代」「高齢者」「ワンちゃん連れ」など属性をより細分化して分析することで、より実態に即した需要把握と提案につなげられると考えられる。

5 課題提出者・地域への提言

本調査を進め、SNS分析や現地調査を行う中で虹の郷がワンちゃんに需要が多いテーマパークであると気づくことができた。ワンちゃん連れで入場できるテーマパークはユニークかつ希少であるため、ワンちゃん連れにターゲットを絞って情報発信や施設運営などを行うことで印象付けることにつながり、ワンちゃんだけでない花やSLなどの虹の郷の魅力を伝えることができるのではないかと考える。そこで、よりワンちゃんに特化したサービスや情報発信を行っていきべきだと提案する。上記でも述べたワンちゃんマップの配布及び掲示や、ワンちゃん向けのごはんやグッズ等もさらに展開して行ってほしい。また、ワンちゃん連れではないものの、様々な理由でペットを飼うことができないがいろんなワンちゃんを見たいという来場者も存在する。そのため、ワンちゃん連れにさらに特化し、ワンちゃん連れの来場数が増加すればその点の需要にも応えられるのではないかと思う。

また、現地調査で感じた景観や落ち着いた雰囲気など修善寺地域全体の魅力向上につなげるためにも虹の郷と地域全体の連携が必要不可欠であると感じた。当初検討していたナイトタイムエコノミーに関して、現地調査の際に修善寺地域の街灯の少なさがネックであると感じた。落ち着いた景観は夜も美しいが、その魅力がわからないどころか安全性への不安を感じた。そのため、宿を出て夜でも安全に外を歩けるよう、魅力的に見せるための街灯の設置を希望する。夜の美しい景観や雰囲気を知ってもらうためにも、まずは修善寺地域全体を明るくしてほしい。

さらに、ワンちゃんと泊まることのできる宿を虹の郷と提携させることも提案したい。例えば、ワンちゃんパスポートのための書類を宿で記入できるようにするなどである。ワンちゃん連れを大事にするとのイメージ付けをより強固にし、魅力度を向上させることができると考える。

6 課題提出者・地域からの評価

本プロジェクトでは、現地視察・関係者ヒアリング・アンケート調査・モニター調査等を通じて、修善寺虹の郷の現状と来場者ニーズを丁寧に把握した上で多面的に整理し、誘客・満足度向上に向けた具体的な提案を取りまとめて頂きました。

特に当初検討していたナイトタイムエコノミーについても調査結果に基づき需要の低さを踏まえて再検討し、「ワンちゃん連れ」需要に焦点を移して提案を組み立て直した点は、実証的で説得力が高いと感じました。

また、SNS運用に関する具体的な改善案やワンちゃん専用マップの提案など、現場で実装しやすい具体策も示されており、今後の誘客・満足度向上施策の検討に大きく資する成果となりました。

[伊豆市役所 観光商工課様]

多くのバブル期テーマパークは独自性が薄い大型アトラクション中心の施設が多く、採算が取れず閉鎖に追い込まれました。虹の郷は、花や庭園、SLまた英国、カナダ、日本の伝統といった複合要素を低コストで展開しておりテーマパークというよりも「自然体験型・地域連携型」の観光施設としての性格が強いことが、現在までつながった大きな要因と考えています。

この「自然体験・地域連携」を元にしたワンちゃんに特化した施設運営を目指す学生の皆様の発想や取組に心より感銘を受けております。今後はこの取り組みを具現化し、外へ向かっての発信方法など山積している課題を一つ一つ解決していく知恵と行動力を皆様の力を借りながら進めて参りたいと思います。

[修善寺自然公園虹の郷総括支配人 山下様]